

田川市も世界とともに

昨日、日常生活のさまざまな場面で接することが多くなった「SDGs」。2030年に向けて世界中の国々が取り組む国際的目標として、すでに2015年から始まっており、日本もさまざまな取り組みを進めています。

本市は令和2年7月に「SDGs 日本モデル」宣言に賛同し、すべての主体が役割を担い、持続可能なまちづくりを進めることを表明しました。「SDGs 日本モデル」宣言とは、地方自治体が国や企業、団体、学校・研究機関、住民などと連携して地方からSDGsを推進し、地域の課題解決と地方創生を目指していくという考え・決意を示すものです。現在、国内で400以上の自治体が賛同しています。本市は、これに基づいてSDGsの視点を盛り込んだ施策を進めるとともに、地域住民や市内企業・団体がSDGsに取り組むことができるよう、積極的な情報発信・普及啓発に取り組んでいます。

世界の「一員」として
できる「一員」がある

「SDGsってなんだろう」と題した講演では、北九州市立大学の眞鍋和博教授が登壇し、先進国



SDGsとは

2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」のこと。2030年までに、世界のすべての人が幸せに暮らし続けることができる持続可能な世界を実現するため、すべての国が共通の目標に向かって取り組むものです。貧困や環境問題・平和・ジェンダー平等など幅広い課題を網羅した17の目標と169の達成基準が設けられており、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	



SDGsとは

2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」のこと。2030年までに、世界のすべての人が幸せに暮らし続けることができる持続可能な世界を実現するため、すべての国が共通の目標に向かって取り組むものです。貧困や環境問題・平和・ジェンダー平等など幅広い課題を網羅した17の目標と169の達成基準が設けられており、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう

①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任つかう責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう

私たちにできること

- 企業**
 - SDGsを新たなビジネスチャンスとして積極的に取り組む
 - 顧客だけではなく社会に求められる商品開発や事業展開に切り替える
 - 地域ボランティアに参加する
 - デジタル化や働き方改革などに取り組む など
- 個人**
 - こまめに電気を消す
 - 食品ロスを減らす
 - 育児休業を取得して夫婦で子育てをする
 - 生活排水をきれいにして水環境を守る
 - ごみを分別して再資源化に協力する
 - 公共交通機関を利用する など

世界の現実

- 世界では気候変動や森林火災、開発などにより毎分東京ドーム2.4個分の森林が減少し、地球温暖化が加速している。
 - このままでは2100年には地球の平均気温が最大約4.8℃上昇。これにより海面も約1m上昇し、自然災害が激化する。
 - 世界人口のうち約7億人以上の人が1日約200円未満で生活している。今もなお多くの人が貧困と飢餓に苦しんでいる。
 - 世界人口のうち約20億人以上の人が管理された安全な飲料水を利用できない。今もなお多くの人が水に困っている。
- ※このほかにも、世界中でさまざまな問題が発生しています。

田川市
SDGs
シンポジウム

私が取り組んでいるSDGs

<p>株式会社オリオン代表取締役 竹下 真大さん 職場で電子カルテの導入に取り組み、デジタル化による紙の大幅削減を実現したことを紹介しました。</p>	<p>株式会社プラテックノマテリアル社長 田中 要広さん 子どもの発案から始まったペットボトルキャップ再生事業(プリンターや文房具へ再生)を紹介しました。</p>
<p>西田川高等学校教諭 梅野 千香さん 個人として家庭で生ごみのたい肥化に取り組み、教師として生徒にSDGsを伝える活動を紹介します。</p>	<p>福岡県立大学献血サークル代表 伊藤 類さん 大学生として、大学間のサークル連携により献血の意義や重要性などを啓発する取り組みを紹介しました。</p>

子どもたちの自由研究

リサイクルや環境問題など、SDGsに関係する子どもたちの自由研究作品を展示したほか、発表動画の上映を実施。発表動画はyoutubeで公開しています。

なぜ今SDGsが必要なのか、今私たちに何ができるのかを一緒に考える機会として、3月10日にSDGsシンポジウムを開催(主催・田川市・一般財団法人自治総合センター)。参加者は、講演と

が経済中心の発展を続ける裏で起きている「世界の現実」を紹介(2ページ右下に例示)。環境破壊・貧困・紛争などさまざまな問題でたくさんの方が苦しみ、人類の存続が危ぶまれてもなお、一部の国や人の豊かさのみが追い求められている現実に触れ「これって「私には関係ない!」と言えるでしょうか」と問いかけました。また「経済の発展と同時に環境と社会の発展も果たせるような社会を作らな

ければならない」というSDGsの最も重要なメッセージを伝えました。

次は行動に移ろう

さらに、経済・環境・社会の3点面立という難題に挑戦するため企業や個人ができることも例示企業としては「SDGsを新たなビジネスチャンスとして積極的に取り組む」「顧客だけではなく社会に求められる商品開発・事業展開に切り替える」など、個人としては「こまめに電気を消す・食品ロスを減らす・育児休業を取得して夫婦で子育てをする」などを紹介しました。

市民のみなさんへ

SDGsは世界規模の大きな目標ですが、その実現のためには、日々の小さな行動の積み重ねが必要です。みなさんは、田川市民であり、世界の一員でもあります。一人ひとり、できることから取り組みをお願いします。

※SDGsは市の施策に密接に関係しています。以降のページで関係特集として「污水处理」や「男女共同参画」の特集を掲載しています。

西田川高校ダンス部のオープニングアクト。動画はyoutubeで公開中。

北九州市立大学
眞鍋 和博 教授

講演やパネルディスカッションの動画はyoutubeで公開しています。

一人ひとりの力は「微力」でも決して「無力」ではない。

最後に「一人ひとりの力は微力でも決して無力ではない。行政も企業も個人も、一緒に行動することでのこの難局を乗り越えられます」と激励しました。